

平成26年度 妙高市体育・保健体育部 活動報告

部長 丸山治夫

1 研究主題

仲間とかかわり合いながら、運動の楽しさや達成感を味わう体育授業の工夫（2年次）

2 研究の概要

平成25年度のスポーツテストの結果によると、当市の小中学生の平均得点は、県平均よりも高くおおむね良好な結果と言える。しかしながら、持久力（シャトルラン）、巧緻性、瞬発性（ボール投げ）などにおいて男女とも県平均を下回っている種目も見られる。運動面の実態としては、日頃から運動に親しむ子とそうでない子の二極化が見られ、自らすすんで運動に親しむ子の育成が課題である。このことから、妙高市体育部では、小学校と中学校が一緒になって「仲間とかかわり合いながら、運動の楽しさや達成感を味わわせる体育授業の工夫」をテーマとした研修に取り組んできた。

3 研究の実際

- (1) 日 時 平成26年11月11日（火）
- (2) 会 場 妙高市立新井小学校
- (3) 指導者 妙高市立新井小学校 校長 金子博信 様
- (4) 授 業 第4学年「アタックプレルボール」
- (5) 授業者 新井小学校 教諭 山口俊充
- (6) 参加者 妙高市学校教育研究会体育・保健体育部員21名



「作戦会議の様子」

4 成果と課題

(1) 授業公開

ネット型ゲームの「プレルボール」を授業者が新たな単元「アタックプレルボール」として構想し、全10時間のうちの7時間目を公開した。通常プレルボールは、ラリーや攻守の切り替えを楽しむことが特性であり、得点を決めるためのアタックは用いない。しかし、児童の実態やよりゲーム性を高める観点から、アタックが可能なルールに変更して行った。授業では、相手の攻撃を防ぐために「ポジション（立つ位置）を考えて守り方を工夫する」ことをねらいとして学習を行った。

(2) 研究協議

研究主題に沿って、参加者を4グループに分けてKJ法で協議を行った。

「仲間とかかわり合う」という視点では、チームでの練習、作戦会議、試合などにおいて、互いに教え合ったりポジションを確かめ合ったりしながら、意欲的に取り組む姿が多く見られた。本時の目的をはっきりとさせる学習シートや学習の振り返りタイムの設定、振り返りの結果をみんなで共有できるように掲示したことなどが有効であった。今後チーム内でのかかわりから、他チームや全体でのかかわりに発展させていくことが課題である。

「運動の楽しさや達成感を味わう」という視点では、授業者が、児童の実態を考慮して題材を開発したこと、運動環境を整えたこと、ゲーム中心の学習過程を構想したことから、多くの児童が運動の楽しさを味わっていた。これからは、技術的な上達や戦略の有効性、仲間とかかわりがより達成感につながっていくようになる。高学年に向けて、そのための工夫や手立てが課題となってくる。

(3) 指 導

題材は、高学年でソフトバレーへの発展を考えると、その前段の学年として適した題材と言える。集団でのゲームのねらいは、「仲間と協力して楽しくゲームをする、ゲームを作り上げる」ことである。中学年の段階から「ゲームの盛り上げ方」「マナー」「楽しめる雰囲気作り」をしっかりと身に付けさせなければならない。また、ただ楽しませるのではなく、運動の特性に応じた楽しませ方が必要である。「基本的な動きを身に付けさせる」「子どもの願いを取り入れたルール作り」などが大切である。

本時は、内発的な動機付けを大切にしたい授業構想であった。結果ではなくそのプロセスを大切にしていきたい。そのためには、子どもの見取りの部分でさらに工夫が必要である。子どもたちは褒められることで自尊感情が高まる。どんどん褒めながら授業の中で自己肯定感を高めてほしい。